

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「誠実明朗」「自主創造」「友情協力」の校訓のもと、明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する人間性豊かな人格の形成をめざす。生徒と教職員の信頼関係をもとにした専門教育を通じて、勤労と責任を重んじ、幅広い技術を備えた社会人を育成する。

- 1 基礎学力と専門的な技能・技術を修得し、社会の中で主体的に生きる力を育てる。
- 2 協調性、規範意識を身につけ、周囲から求められる社会人を育てる。
- 3 地域社会の中での存在意識を高め、生徒が誇りをもてる学校づくりを進める。

2 中期的目標

1 社会の中で主体的に生きる力を育てる

(1) 確かな学力の定着と学びの深化

ア 1人1台端末を活用した、個別最適な学びのある授業へと授業改善を推進し、基礎的・基本的内容の確実な定着を図る。

イ 主体的・対話的な深い学びのある授業へと、創意・工夫や教材（ICT利用に活用も含め）等の改善を推進し、学習指導要領に基づく三つの資質・能力を育成するとともに、確かな学力を身につけさせる。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業に関する満足度」の令和8年度肯定率90%以上をめざす。(R03年度85.3%、R04年度84.8%、R05年度81.0%)

(2) 資格取得に対する意欲を高め、主体的に自己の将来を切り拓く能力を育成

ア 各種の資格取得を勧め、学習意欲の喚起と有用な技能修得を図る。

※令和8年度も卒業生の資格取得率100%（一人一つ以上）を維持する。(R03年度100%、R04年度100%、R05年度100%)

(3) 在学中の就労を促進するとともに、生徒の希望する進路実現の支援体制の充実

ア 未就労生徒に対して、個別指導と個別支援による就労促進を行う。

イ キャリア教育、職業教育を充実させ、社会で自立できる力を育成する。

ウ 自己の個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育成する。

※学校斡旋就職を支援し、令和8年度も就職希望者の正規雇用就職率90%以上、就職内定率100%をめざす。

(就職希望者の正規雇用就職率 R03年度100%、R04年度100%、R05年度100% / 就職内定率 R03年度89%、R04年度100%、R05年度100%)

2 周囲から尊敬される社会人を育てる

(1) 授業規律の確立

ア 組織的な指導体制により、良好な学習環境と授業規律の確立を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における「良好な学習環境」の令和8年度肯定率80%以上を維持する。(R03年度67.6%、R04年度84.3%、R05年度85.9%)

(2) 協調性や社会性の育成

ア 魅力ある学校行事、部活動を振興し、学校生活の魅力を高め、集団活動への参加促進を図る。

イ SNS等インターネット上や学校生活及び感染症等に起因する偏見や差別を許さない人権を尊重する教育を推進する。

※令和8年度、1年次生の進級率90.0%以上をめざす。(R03年度87.5%、R04年度71%、R05年度53%)

3 誇りをもてる学校づくり

(1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得

ア 地域活動・公開講座の実施など、地域から見える特色ある学校の取組みを推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで保護者や地域の人々とかかわる機会がある」の令和8年度肯定率70%をめざす。

(R03年度—(参加機会なし)、R04年度—77.3%、R05年度67.8%)

(2) 広報活動により、学校の取組みを広く伝える

ア 学校ホームページの充実、地域への広報を積極的に展開する。

※令和8年度、中高連絡会・学校見学会等の参加者について、年間延べ50名以上を維持する。(R03年度—(参加機会なし)、R04年度—51名、R05年度—54名)

(3) 人材育成により、優れた教育の提供

ア 生徒のニーズに合致した、特色ある教育課程と優れた指導体制づくりの構築。

※保護者向け学校教育自己診断における「本校の特色ある取組み」の令和8年度肯定率90%以上を維持する。(R03年度100%、R04年度77.8%、R05年度100%)

4 働き方改革への取組み

(1) 分掌・委員会等の会議の目的を明確化し効率を図る

ア 会議資料のデータ化、ICT活用による効率的な運営を図る。

(2) 定時退庁の促進、学校閉校日の活用ならびに有効な休暇取得の促進

ア 教職員の業務分担の平準化を図り、健康増進・ストレス軽減により、働きやすい職場環境を実現する。

イ 各種ハラスメント防止に対する意識の啓発を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 社会の中で主体的に生きる力を育てる	(1) 確かな学力の定着と学びの深化 ア 1人1台端末を活用した、個別最適な学びによる基礎的・基本的内容の確実な定着	(1) 授業改善のため公開授業を実施。 ア・授業において1人1台端末を活用の確認テスト等を実施し、生徒の学力把握および、個別最適な学習を推進し、基礎学力の定着を図る。 ・生徒の学習意欲を喚起するよう、わかる授業・できる授業をめざし、振り返り学習による学力の定着を図る。	(1) ア・1人1台端末を利用した個別最適な学びのある公開研究授業を、校内で10回以上実施し、基礎学力を定着させる。 (生徒向け学校教育自己診断)「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」肯定率80%以上をめざす。[71.9%] (授業アンケート)「先生は、授業中に生徒の学習状況をよく把握しようとしている。」肯定率85%以上を維持 [87.3%] ・(生徒向け学校教育自己診断) 「授業が楽しくわかりやすい」肯定率85%以上維持。[87.5%] (授業アンケート)「あなたは、授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」肯定率85%以上を維持 [85.1%]	
	イ 主体的・対話的な深い学びのある授業を推進し、学習指導要領に基づく三つの資質・能力の育成	イ・主体的・対話的な授業となるよう授業改善を行う。教材の共有化を図り、授業準備等の業務効率化を図る。	イ・1人1台端末を利用した主体的・対話的な深い学びのある公開研究授業を、校内で10回以上、校外5回以上実施する。 (生徒向け学校教育自己診断)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」肯定率60%以上をめざす。[53.1%] (教員向け学校教育自己診断)「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」肯定率80%以上を維持。[80%] (教員向け学校教育自己診断)「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。」肯定率80%以上をめざす[79%]	
	(2) 資格取得に対する意欲を高め、自己の将来を切り拓く能力の育成 ア 各種の資格取得を勧め、学習意欲の喚起と有用な技能取得を図る。	(2)ア・溶接技術、CAD、製図、計算技術等、授業内容と関連する資格取得への講習及び個別指導の充実を図る。 ・3級自動車整備士試験の自動車系列の受験率向上と、合格率向上をめざし、日々の授業と講習の充実を図る。	(2)ア・各種資格取得を奨励し、資格取得生徒の増加を図る。 卒業年次生の取得率100%を維持。[100%] ・自動車系列の生徒の3級自動車整備士試験の受験率100%、合格率100%を維持する。[R05年度100%受験(100%合格)]	
(3) 正規就労の拡大 ア 個別の指導・支援による就労指導	(3) ア・求人開拓、個別指導を継続的に実施強化し、正規就職に向けた支援を行う。 ・将来のキャリアを見通した進学指導を行う。	(3) ア・就職希望者の応募前職場見学率100%維持 [100%] ・就職希望者の正規雇用就職率100%維持 [100%] ・就職内定率100%維持 [100%] ・進学希望者の合格率80%をめざす [100% 1名] (生徒向け学校教育自己診断)「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率85%以上をめざす。[84.4%]		
2 周囲から尊敬される社会人を育てる	(1) 規範意識の確立 ア 組織的な指導体制と良好な学習環境の確立	(1) ア・全教職員による生活指導体制を確立し、規範意識や情報リテラシー等を育成し、良好な学習環境を維持する。	(1) ア・(生徒向け学校教育自己診断)「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」肯定率80%以上を維持。[84.4%] ・(授業アンケート)「あなたは、授業中は集中して先生の話を聞いて学習に取り組んでいる。」肯定率80%以上を維持 [85%]	
	(2) 協調性や社会性の育成 ア 学校生活の定着と魅力を高め、集団生活への参加を促進	(2) ア・高校生活支援カードを活用し、家庭及び中学校・外部機関との連携を深め、きめ細かい支援体制により学校生活への定着を図る。 ・学校行事の球技大会、文化祭、校外学習(修学旅行)を充実させ、生徒間の協調性を深める。 ・部活動への積極的な参加を促し、個人または集団での行動範囲を広げ、学校生活の充実を図る。 ・生徒秋季発表大会への参加により、生徒の能力を引き出す	(2) ア・(生徒向け学校教育自己診断)「先生は、日常生活や家庭生活について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」肯定率80%以上を維持。[81.3%] 「長欠(年間30日以上欠席)生徒を、在籍数25%以下をめざす。[27.5%] 「1年次生の進級率」60%以上をめざす [53%] ・(生徒向け学校教育自己診断)にて、以下の行事が「楽しく行われるように工夫されている。」肯定率平均80%以上を維持 [球技大会 75%、文化祭 81.3%、校外学習(修学旅行)87.6%で81.3%] ・外部の大会等に参加する部活動の増加 [写真部1回、軽音学部1回、バスケットボール部2回、自動車部2回] (生徒向け学校教育自己診断)「部活動に積極的に取り組んでいる」における肯定率65%以上を維持。[68.8%] ・生徒秋季発表大会への参加を維持。	

	イ 偏見や差別を許さない人権尊重教育を推進	イ・人権 HR 等の指導を徹底し、学校内外における人権尊重意識を持たせる。	「舞台発表」 軽音楽部1バンド3名 「展示発表」 写真1名、美術9名 イ・(生徒向け学校教育自己診断) 「人権について学ぶ機会がある」肯定率 80%以上をめざす。[75%]	
3 誇りをもてる学校づくり	(1)地域連携の促進 ア 地域から見える特色ある学校の取組みを推進。 (2) 広報活動の展開 ア 学校の特色を広く伝える活動を展開。 (3)優れた教育環境の提供 ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と指導体制づくり イ 安全安心な学校づくり	(1) ア・地域連携活動について、生徒会にて活動内容を検討する。 ・市内の小中学校への出前授業の実施。 ・市内幼稚園等への実習作品の寄贈の継続。 (2) ア・学校行事を保護者および地域に公開し、広報活動を展開する。 ・学校の活動が鮮明に伝わるよう創意工夫に努めた学校ホームページの活用。 ・中学校訪問や学校説明会や体験入学等により教育内容の周知を図る。 (3) ア・工業系科目の充実を図り、生徒が意欲的に取り組める教材を適切に選択するとともに、ニーズに合致するように保護者への授業参観の機会を増やす。 ・全教員が相互見学できるように公開授業を計画し、研究授業参加、研修派遣等も推進し、授業力向上と授業改善を図り、優れた学習環境をめざす。 イ・生徒への避難訓練や交通安全教室、教職員への食物アレルギー研修や AED 講習の実施。 ・校内安全点検の実施。 ・個人情報の適切な管理を徹底する。	(1) ア・(生徒向け学校教育自己診断)「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかわる機会がある。」肯定率 65%以上を維持。 [67.8%] ・市内小中学校への「ものづくり出前授業」参加者 40 名以上を維持。 [105 名] ・実習作品(木製ベンチ)の寄贈5台以上を維持。 [8台] (2) ア・学校行事(球技大会・文化祭)等への保護者・地域住民の参加者延べ 50 名以上を維持。 [56 名] (保護者向け学校教育自己診断)「学校は保護者や地域の人が授業に参加する機会を設けている。」 肯定率 80%をめざす。 [77.8%] ・ホームページ更新(教員・准校長ブログ発信を含む)による情報発信年間 80 回以上をめざす。 [82 回] (保護者向け「学校教育自己診断」 「ホームページをよく見る」における肯定率 50%以上をめざす。 [22%] ・中高連絡会、中学校訪問等での連携中学校 35 校以上を維持 [35 校] ・中学校への学校説明会等の参加者 20 名以上を維持。 [23 名] (3) ア・(保護者向け学校教育自己診断) 「この学校には、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」 肯定率 100%を維持。 [100%] ・(生徒向け学校教育自己診断)「この学校には、他の学校にない特色がある」における肯定率 75%以上をめざす。 [71.9%] ・(教員向け学校教育自己診断) 「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」 肯定率 75%以上をめざす。 [71.9%] (教員向け学校教育自己診断) 「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」 肯定率 90%以上を維持。 [95%] イ・(生徒向け学校教育自己診断) 「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」 肯定率 80%以上をめざす。 [75%] ・産業医による校内巡回点検(年2回)および機械工場、自動車工場の定期点検の実施により安全な学習環境を保持。 [すべて実施] ・(生徒向け学校教育自己診断) 「成績などの内容についてプライバシーが守られている」 肯定率 100%をめざす。 [84.4%] (保護者向け学校教育自己診断) 「学校では、子どもに関する個人情報を守られている」 肯定率 100%を維持する。 [100%]	
4 働き方改革への取り組み	(1) 会議目的を明確化し効率化を図る ア 会議資料のデータ化、ICT 利用による効率的な運営 (2) 定時退庁の促進及び有効な休暇取得の促進 ア 働きやすい職場環境づくり イ 各種ハラスメント防止に対する意識の啓発	(1) ア・各会議室を ICT 利用により効率的な会議運営できる場として整備する。 ・各種会議を ICT 利用により、資料や説明を効率的にし、教職員間の意思疎通や意見交換に有効な時間を確保する。 (2) ア・校務の業務効率化を図り、ストレス軽減・健康増進に向け、働きやすい職場環境を実現する。 イ・各種ハラスメントについて、日常的に注意喚起し、責任ある行動を求めるとともに、各種ハラスメントの職員研修を行う。	(1) ア・(教員向け学校教育自己診断) 「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。」における肯定率 80%以上をめざす。 [75%] (2) ア・ストレスチェックにおいて、全国平均を 100 とした場合の、 A 仕事の量的負担・コントロール度 85 以下を維持 [85] B 職場のサポート 100 以下をめざす [102] C 総合健康リスク 85 以下をめざす [86] イ・教員向け学校教育自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」肯定率 80%以上をめざす。 [75%]	